台湾日語教育会 J-GAP TAIWAN

2012　特別ワークショップ活動

【活動記録】

主題：日本語能力を如何に評価するか
主講人：當作靖彦（University of California, Sandiego）
日期：2012 年 12 月 2 日(日)　8：30～17：00
場所：静宜大学
賛助：日本国際交流基金会
目的：ルーブリック作成を通して、評価基準を共有する
参加者：50 人（大学の教師が主で、高校の教師も参加）

9：00～10：40　評価の基本概念

・評価の重要性…
①目標をはっきりと設定した教育→より高い目標を立て、それを達成→質の高い教育
②教育目標を達成したかどうかを確認する必要性→測定できる結果→説明責任
③目標を達成することを助ける必要性

・なぜテストをするのか
教育機関によってさまざまな理由がある。一番大切なことは、テストのポジティブな部分を見て、学生が勉強しやすくなるためのもの、そしてモチベーションを保つのを助けるためのものであるべき

・言語教育における評価
①　具体的ゴールがあるならば、ゴールを達成したかどうかを評価すべき
②ゴールと評価はミラーイメージにあるもの
③教育はゴールを達成するようにデザイン、実施される
④評価は教育の内容を反映したもの
↓
学習目標＝評価項目

・評価のリテラシー
評価の最大目標は、学生が学習目標を達成したかどうかの「証拠」を集めること。
教師は自分の得たい証拠を集められるようにテストをデザインし、実施する。
そのためには…教師が評価をテストの基本概念を理解していることが重要。

・テストに対する考え方

[ペアワーク] 1 ～11 の項目に賛成か、反対か、またそれはなぜかをペアで話し合う。
＜全体で意見をシェア＞

1「テストの一番の目的は成績をつけることである」…反対－

2「テストでよい成績が取れることを目的に教えるべきではない」…中立－

3「生徒はテストがあるから勉強する」…反対－

意見：「多くの学生がそうかもしれないが、そうでもない学生もいるので、そのような学生がいることも無視できない」

4「テストをする時間は学習する貴重な時間を奪う」…反対－

當作先生：「表面的にはテストに見えないけれど、授業内で行っている内容を評価の対象に入れればテストをする時間が省くことができる」

5「口頭試験は時間がかかるから避けるべきである」…反対－

意見：「会話のクラスなら、口頭試験をすべき」

當作先生：「ゴールと評価が一致すべきなのだから、会話のクラスでは口頭試験をしなければならない。人数が多くても、TA の協力で不可能だとは言えないはず」

6「テストにはクラスで教えたことしか出してはいけない」

當作先生：「教えたこと＝テストに出ること」というより、「テストに出ること（学習目標）＝教えたこと」になるべき。そのために、学生には教師が何を評価するのかをオープンにし、それに向かって学生が努力する体制を作る」

7「多項選択肢式テストはよいテストではないから、避けるべきである」…反対－

意見：「何のテストかによって異なる」

當作先生：「多項選択式のテストも必要な場合がある。しかし、いい多項選択式の試験を作るのは難しい」

8「テストでは、生徒は辞書やノートの使用を許可されるべきではない」…反対－

意見：「テストの種類による」

9「一番いいテストとは結果がベル・カーブで出てくるものである」…反対－

當作先生：「一般的にいいテストの結果はベルカーブになるといわれているが、数学などのテストでは受験者数が多ければ多いほどベルカーブになるが、語学のような知識を測るテストではベルカーブにならない」

10「生徒全員が満点を取るテストはいいテストではない」…反対－

當作先生：「機関によっては相対評価にしなければならないという規則があるが、そうでないなら皆がいい結果が出せることはいいことである」

11「習得が起こるまでは、テストをしてはいけない」…反対－

當作先生：「テストがゴールではない。テストが悪くても、それは中間地点なのだから大丈夫。これから伸びていくことを学生に伝えよう」

・カリキュラムと評価

① カリキュラムに基づいた評価ー小テスト、クイズ、中間・期末試験

②　オン・デマンドの評価－日本語能力検定試験　など

・成績決定の方法
①　団基準準拠評価：ノーミング・グループ(プレテストの受験者の結果)か先に決めた基準によって決定する。例：中間・期末試験、TOEFL
②目標基準準拠評価：あらかじめ決められた目標、基準に基づいて成績を決める方法
例：日本語能力試験

・何を評価するか
＜能力の高さ＞
①　きまった時間でどのくらい能力向上があったかを測る。語彙・文法テスト、中間・期末テスト→**到達度テスト**
②現在どのくらい能力があるのかを測る。アメリカ政府外国語試験、日本語能力試験**→熟達度テスト**
②　内容はカリキュラムの中で扱ったもののみ、テストの方法は熟達度テストで行う。オーラル試験で用いられる。**→プロチーブメントテスト**
＜能力の内容＞
②　知識の質・量を測定する。語彙・文法テスト→**知識テスト**
②言語を運用する能力を測定する。アメリカ政府外国語高等能力試験、ロールプレイを使ったテスト→**運用能力テスト**
＜図る能力の数＞
①　一つの言語要素のみを測定する。多項選択式テスト→**単純項目テスト**
②　一つ以上の言語要素、言語レベルを測定する。口頭試験、作文、自由解答、ロールプレイを用いたテスト→**全体的能力評価**
＜測るスキルの数＞
①テストに答えるのに一つのスキルを必要とする。**→単一スキル評価**
②テストに答えるのに複数のスキルを必要とする。**→複合スキル評価**
例：「ホームステイ先でお母さんにかかってきた電話を取り(聞く)、伝言をメモし(書く)、お母さんにそのメモを見ながら(読む)説明しなさい(話す)。」

＊何を測るのかに忠実に則したテストを用いなければならない。そのため、聞き取りの試験なのにもかかわらず、問題を日本語で書いてしまったのでは、本当に聞き取りの力を測れたのか分からないし、学生に対しても公平でない。
＜測定対象を直接測定しているか＞
②　一定の対象となる能力を直接測定する。書く能力を作文で測るなど。**→直接的評価**
③　一定の対象となる能力の根底にある能力を測定する。書く力があるかを図るための文法テスト。**→間接的評価**

＜採点の客観性＞
①客観的評価：採点において主観があまり入らない、信頼性の高い評価。
例）多項選択式テスト、○×テスト
②主観的評価：採点の際に採点者の主観的判断が入る。
例）口頭試験、ルーブリック、作文
＊どのようなテストでも客観的評価がいいというわけではないため、測りたい能力によって使い分けることが大切。

11:00～12:30　評価の根本的概念
・評価の仕方
①　要素分解(分析)評点：要素分解評価ルーブリック
③　全体的評点表：アメリカ政府外国語能力試験
④　数値評価：１００点満点のテスト
④加重化:評価の際に重要な要素に重みを加えること。先生の教え方によって異なる、強調したいところをより評価できる。

＜個人を評価するかどうか＞
①個人評価：学習者個人個人を評価する
②集団評価：学習者のグループ全体を評価する
＜誰が評価するか＞
①自己評価
②学習者同士の評価：例）１０点を４人で分けて学生同士で評価しあう。しかし、客観的な評価をさせにくい。
④　教師による評価
⑤　外部評価：クラスに関係しなかった外部の人による評価

・練習効果とは…何度も同じ形式のテストをやっていると慣れていい点数が取れるようになること。テストによって学習効果は異なるが、慣れることで実際の能力以上の結果が出て、実際の能力を測れなくなることがある。

・波及効果とは…よいテストはよい教育者、学習者を作り、学習効果をあげるという仮説。

・評価のパラダイム・シフト：伝統的評価から代替的評価へ。
「成績をつける、振り分ける」から「学習を助ける、能力を引き出す」ための評価へ
①目的により、伝統的評価と代替的評価を使い分ける必要がある。
②　２つのタイプの評価をうまく組み合わせて、適切な評価をし、学習効果をあげる必要がある。

[グループワーク]口頭試験のサンプルを聞いて、4種類のルーブリックを用いて評価をしてみよう。
結果…同じサンプルでも、評価者によって結果が異なった。また、評価用紙によっても何を重視した評価なのかが違うため、出てくる結果も異なることがわかった。

13:30～15:00　ルーブリックの作り方
・台湾人学習者の作文2篇を使い、ペアーで、またグループで、評価表の作成を体験する。まず、一つ目の作文を読んで、ルーブリックの基準を考える。それを使い2つ目の作文を評価する。具体的流れは以下。

①ゴール(学習目標)を設定する。
②ゴールに必要な応力と知識を特定化する。
③その能力と知識を評価するのに一番いい方法を決定する。
　前の時間に使った4種類のルーブリックを参考にして、ペアでルーブリックを作成。
＊ルーブリックは学生の母語で書き、学期の一番最初に学生に渡す。定期的にそのルーブリックを用いて評価することで、評価が記録となり、成長を見ることができる。ポートフォリオのような役割にもなる。

[ペアでルーブリックを作成しよう]
①作文能力を測るためのルーブリックを作る。
②基準、レベル、標準記述を決める。最低でも3つの評価段階を作ること。
　レベルを言葉で表す（よくできました、がんばろう、など）か、数字で表す(５、４、など)かを決める。言葉で表す際はネガティブな表現を使わないようにする。
③ に重要視している部分には加重化を用いて評価するとよい。

＊ルーブリックを使い、学生に公表することで学生がテストを怖がらなくなる。さらに、その目標に向けてがんばれるようになる。

15:20～17:00　ルーブリックの作り方
[隣のグループとルーブリック表を交換し、評価しあおう]
　作成後、隣のグループとルーブリックを交換し合い、評価しあう。その際、褒めるだけでなく批判的な目でも評価し、改善点も指摘する。

[作成後の全体の意見や感想の発表]
・自分たちは評価内容を細かく書きすぎていて、隣のグループのようにシンプルに書いたほうがわかりやすいと思った。
・大まか過ぎたので、もっと詳細部を書いたほうがよかった。

・評価内容に入れ忘れている技能があった。
・評価内容を書くのは難しかった。

當作先生：
・ルーブリックは何度も書いているうちに、作成も簡単にできるようになる。
・評価内容は学生に公表するため、何を評価するのかをわかりやすく、明確に書かなければならない。
＊教師がテストに対する態度を変えれば、授業が変わり、学生も変わっていく。

【ポートフォリオ】について
・学生の作文、日記、プロジェクト、写真、ワークの結果、ルーブリック、内省、自己評価などを保存し、教師は成績をつける際に参考にし、学生は自分の成長を目で見て確認することができる。

陳淑娟：台湾の大学では「学習成果」が教育の効果として反映するものとされ、それを評価の大切さが叫ばれている。また、ポートフォーリオは将来就職するためのツールとして「学習護照」と言って、最近、実施する大学が増えている。しかし、なぜ、こうしなければならないか、すじの通る首尾一貫の論理性、有用性を教師に理解させる機会がないため、半端の知識しか持たず、疲れ果てで途中で終わることが多い。今日の話を伺い、目からうろこでした。大いに勉強させていただいた當作先生の面白いワークに感謝します。